

第26回新生ふくしま復興推進本部会議

○日 時：平成26年8月4日（月）9：30～9：45

○場 所：第一特別委員会室（本庁舎2階）

【村田副知事】

ただいまから、新生ふくしま復興推進本部会議を開催いたします。

議題1「平成27年度国の予算に向けた取組について」、企画調整部長。

【企画調整部長】

お手元の資料1をご覧ください。

国の平成27年度予算に向けた取組につきましては、資料の中ほどにありますとおり、6月11日に知事に行ってくださいました要望をスタートに、各部局とも直接省庁に出向いて、意見交換の場を通じ、折衝を行ってきております。また、7月以降、市町村長と知事との意見交換会を随時、各方部で実施しており、現場の課題を改めて把握してまいりました。折衝の状況や市町村の要望を踏まえつつ、今後、特に国に対して、予算確保に向け、訴えなければならない項目について、2ページ以降にまとめております。

2ページをお開きください。

2ページ、3ページに渡り、大きく3つに分類しております。

まず、Ⅰ「被災者等への支援の充実」でございます。左側に現状・課題、右側に提案・要望、強く訴えるべき主なものについて、まとめております。避難生活の長期化により、様々な課題が出ておりました。さらに、今後帰還したり、復興公営住宅に入居したりと、新たな生活の場へ移行することにより、新たな課題が生まれることも予想されることから、きめ細かな支援体制や、医療福祉の人材確保、さらには関連するインフラ整備などが特に必要でございます。

続きまして、Ⅱ「産業復興の加速化」でございます。発災以来取り組んできた各種の拠点整備を確実に進め、地域経済に波及させていく必要があります。避難解除等区域における再生可能エネルギーの飛躍的導入推進や、医療関連産業の集積に向けた取組、さらには雇用のミスマッチなども含めた取組が必要でございます。また、これらの障害となる風評や風化へのしっかりした対策も、改めて必要でございます。

3ページをお開きください。Ⅲ「避難地域の復興・再生」でございます。イノベーション・コースト構想が6月23日に取りまとめられ、翌24日には政府の骨太の方針に盛り込まれました。浜通り市町村からの期待も大きく、実現に向けてしっかりと進めていくことが重要となっております。

以上、3つの大きなテーマにまとめておりますけれども、今後国と調整を進めてまいる考えでございます。説明は以上でございます。

【村田副知事】

ただいまの説明について、何かありますか。総務部長。

【総務部長】

財源的にも厳しい状況となっておりますので、財源確保も併せて、国との折衝の中で強く訴えながら、その確保に向けて努力をお願いしたいと思っております。

【村田副知事】

それでは、知事からお願いいたします。

【知事】

このところ上京する機会があり、また、市町村長と意見交換会をさせていただき、地元としては4年目にして風化が相当進んでいるという思いがある。このことをわかってもらうためには、それぞれの部局が27年度の国との予算折衝にしっかりと対応するという事。今年が胎動の年であり、これからの福島県の復興を担う大事な拠点整備がスタートし、入札、工事が始まっているところもある。これが形となって、しっかり目に見えてくるのは来年度であるから、それに向けて着実に進めていく。そしてまた、福島県の現状を細かく霞が関に伝えることが、結果的に予算化につながる。今、一番厳しい時期を迎えていると思うが、風化の対策と同時に、予算の実現化に、危機感をもってしっかりとした取組に努めてほしい。以上。

【村田副知事】

続きまして、報告事項に入ります。

「復興公営住宅について」、避難地域復興局長。

【避難地域復興局長】

資料2-1をご覧ください。第一期入居募集について、平成26年度下半期に完成予定の528戸は、第一期分として募集・抽選を実施しており、入居者が概ね決まっております。第二期入居者募集について、平成27年度上半期に完成予定の244戸は、第二期分として10月から11月まで募集を行うこととしております。

次に、平成27年度下半期に完成予定の、第三期以降の募集に向けた進捗状況について、ご報告申し上げます。

第一次整備計画3,700戸については、27年度中の完成を目指してまいりましたが、用地の確定や造成工事に時間を要するものがあり、完成時期に遅れが生じることとなりました。今後、用地を確定し、造成設計完了後に完成時期が明確になってまいります。現段階で標準的な工期を当てはめると、3,700戸のうち約2,100戸については、27年度末までに完成が見込まれますが、残りの約1,600戸については、地区により1ヶ月から9ヶ月の遅れが出る見込みとなっております。一日も早い入居が求められている中、避難者の皆様の意向に沿うことが出来ず、誠に申し訳なく思っております。

また、第二次整備計画を含めた全体の4,890戸につきましては、28年度末に完成する予定でございます。今後、第三期以降の募集につきましては、完成時期に合わせて、引き続き段階的に実施したいと考えております。

【村田副知事】

今の説明で、遅れが出た大きな要因というのは何ですか。

【避難地域復興局長】

3,700戸の内、2,100戸については27年度中に完成予定であり、残りの1,600戸が遅れるということになりますが、これに関しては、まずは整備箇所の選定に時間を要したということ、それから用地の売買契約に時間を要するケースがあること、そして選定した用地に大規模造成を必要とするものがあるということの3点が大きな要因であると考えております。

なお、郡山市分につきましては、用地の選定がスムーズにいったことから、第二次整備計画分も含め、すべて27年度末までに完成する見込みとなっております。一方、最大の1,760戸を整備するいわき市分につきましては、整備戸数が200戸を超える大規模な造成を要する箇所が複数ありますことから、完成時期については非常に厳しい状況にあります。

【村田副知事】

土木部長、工期を短縮したり、遅れを取り戻す方法はないのか。

また、完成予定が明らかになる時期はいつ頃なのか。

【土木部長】

完成時期は、今後、用地取得後に造成設計を行う中で決まってくると見込んでおりますが、3,700戸全体が明らかになるのは、27年2月から3月頃

と見込んでございます。工法の検討による更なる工期の短縮を図りまして、一日も早い完成を目指していきたいと考えております。

【村田副知事】

復興公営住宅の遅れというのは、避難者の生活再建に直結する重要な課題でございますので、これについては全庁を挙げて、しっかり取り組んでいただきたい。

続いて、資料2-2について、避難地域復興局長。

【避難地域復興局長】

資料2-2は、復興公営住宅の整備箇所と、入居する市町村の割振りについて調整が完了しましたので、ご報告するものでございます。以上でございます。

【村田副知事】

それでは、知事からお願いいたします。

【知事】

今、副知事から話があったが、避難している人は、一刻も早く安心して暮らせる住宅に入居したいというのが大きな声である。今のような状況の中でも、避難者が一日も早く入居できるような対策を取ることで、これを両部局で万全を尽くして、一日も早く解消するように全力で進めてほしい。以上。

【村田副知事】

次に報告事項の二つ目、「避難指示区域の復旧見通しについて」、土木部長。

【土木部長】

資料3をご覧ください。「避難指示区域内の道路網及び海岸堤防の復旧見通しについて」、ご報告いたします。

まず、道路網について、これまで一時帰宅等に対処するための応急対策をいたしまして、安全確保に努めてまいりました。今回、常磐道の浪江ICの供用開始や全線の開通時期が公表されたことを受けまして、除染等の調整を進めてまいりましたが、それが調いましたので、記載の主要なアクセス道路の本復旧を進めることについて、ご報告するものでございます。なお、常磐道全線供用後も、帰還あるいは復興等の支援のために、引き続き関係機関と連携し、計画に基づきまして本復旧を進めることとしております。

次に、海岸堤防について、帰還困難区域を除きまして、平成24年度から実

施してまいりました災害査定が、今週8月8日までに終了する予定でございます。災害査定後5年以内の復旧完了を目指してまいります。説明は以上でございます。

【村田副知事】

ただいまの説明について、何かありますか。

これについては、着実に進めていただくよう、お願いします。

次に報告事項の三つ目、「ふくしま復興のあゆみについて」、企画調整部長。

【企画調整部長】

資料4「ふくしま復興のあゆみ」第8版をお配りしております。

これは、四半期ごとに改訂しているものでございます。前回は、4月28日に第7版をお示ししております。

随時時点更新しているものでございますが、主なものとしては、3ページをお開きください。避難者の推移について、6月現在で126,889人となっており、13万人を切っている状況です。

11ページをお開きください。上段に観光客の推移として、実宿泊者数についてまとめたものがございます。平成22年同月との比較でございます。前回は、平成25年9月分まで示しておりましたが、今回12月分と3月分を加えており、それまでの上昇傾向から、震災前比26%の減少となっております。ただ、その右側でございます観光客全般の入込状況につきましては、平成24年より増加しており、震災前比84.5%となっております。

17ページをお開きください。全般的な各指標につきまして、棒グラフで状況をまとめております。第7版までは、18ページにあるような道路・海岸等の施設系のデータを載せておりましたが、今回からは、その他のソフト等に係るデータにつきましても、このような形で改めて掲載しております。

今後とも、いろいろと見せ方を工夫していきたいと思っておりますが、福島の実況を伝える基本的なデータとして、各部局におかれましても、ご活用いただければと思います。以上でございます。

【村田副知事】

ただいまの説明について、何かありますか。

これについて、先ほど知事から、風化の防止・風評の払拭の話がありましたけれども、各部局において、この「あゆみ」を有効に活用して対応していただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

以上で、復興推進本部会議を閉じます。